

財務分析

損益計算書

2025年度実績(対前年度比較)				
(億円)				
	2024年度	2025年度	増減額	増減比
売上高	3,047	3,357	+309	+10.2%
売上総利益	1,371	1,552	+181	+13.2%
%	45.0%	46.2%	+1.3pt	
営業利益	212	309	+96	+45.4%
%	7.0%	9.2%	+2.2pt	
経常利益	208	331	+123	+59.5%
%	6.8%	9.9%	+3.1pt	
税金等調整前当期純利益	203	318	+115	+56.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	133	220	+87	+65.1%
%	4.4%	6.5%	+2.2pt	

売上高

売上高は、連結全体で3,357億円(前年度比+10.2%)と前年度から増収となりました。エモーショナルバリューソリューション(EVS)ドメインは、国内向けのウォッチ事業、和光事業が堅調な個人消費やインバウンド需要を背景に大きく売上高を伸ばし、海外向けのウォッチ事業も米国を中心に伸長して、売上高は前年度を大きく上回りました。デバイスソリューション(DS)ドメインは、小型電池を中心に伸長し、売上高は前年度を上回りました。システムソリューション(SS)ドメインも、多角化やストックビジネス拡大への取組みにより、前年度を上回る売上高となりました。

経常利益

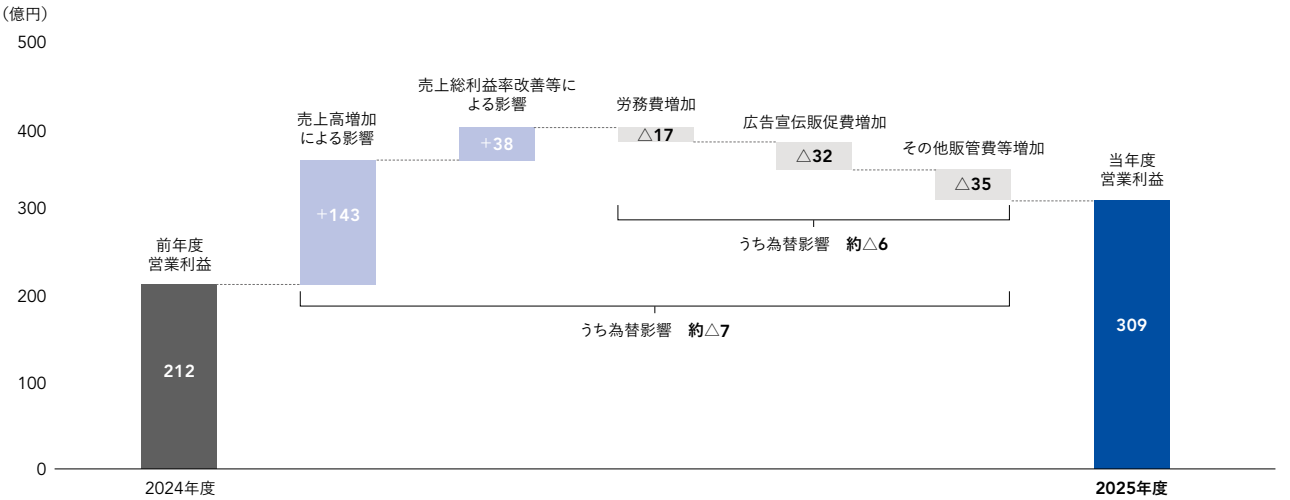
営業外収支は、円相場の大幅な変動による為替差益の計上等により前年度から27億円改善し、経常利益は前年度を123億円上回る331億円(前年度比+59.5%)となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益は、特別利益として固定資産売却益6億円、特別損失として減損損失や事業構造改善費用など、合わせて19億円を計上しました。これらの結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度から87億円増加の220億円(前年度比+65.1%)となりました。

営業利益増減要因

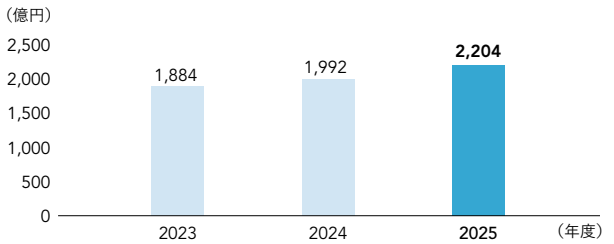
営業利益は、広告宣伝販促費が10%以上増加し、販売費及び一般管理費が前年度から85億円増加したものの、EVSドメインおよびDSドメインが牽引し、売上高の増加および売上総利益率の改善等により、前年度から96億円増加の309億円(前年度比+45.4%)となりました。



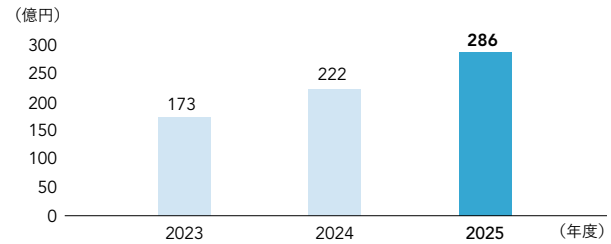
ドメイン別業績推移

EVS(エモーショナルバリューソリューション)

売上高



営業利益

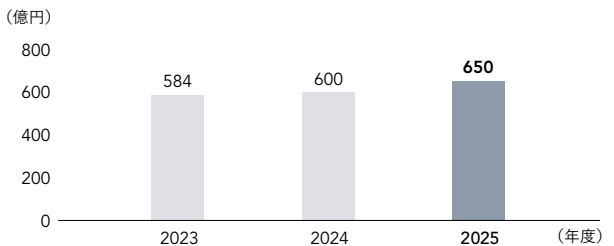


※ 2024年度のみ2025年度のセグメントに組み替えて表示。

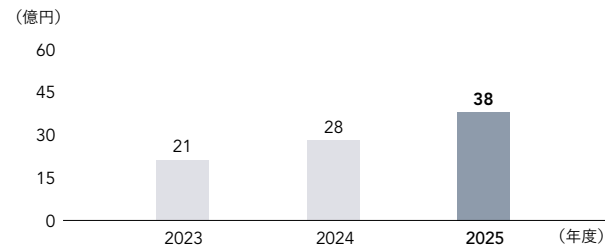
EVSドメインの売上高は2,204億円(前年度比+10.7%)となりました。
ウォッチ事業の売上高は、グランドセイコーにおいては、国内で2025年10月以降復調し、また海外でも米国市場で好調に推移して、前年度を上回りました。「セイコー」は、グローバルブランドであるセイコー プロスペックス、セイコー プレザージュ、セイコー スポーツが好調に推移し、前年度から大幅に増加しました。国内はインバウンド需要を背景に広告効果もあり、また海外は米国市場を中心に大きく伸長しました。
和光事業は、引き続き好調なインバウンド需要もあり、ウォッチを中心に売上高は前年度から大きく増加しました。
営業利益は、売上高の増加および売上総利益率の改善等により286億円(同+28.7%)と大幅な増益となりました。

DS(デバイスソリューション)

売上高



営業利益

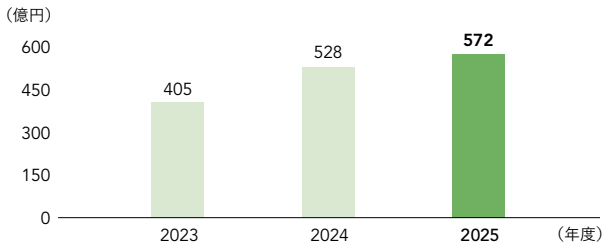


※ 2024年度のみ2025年度のセグメントに組み替えて表示。

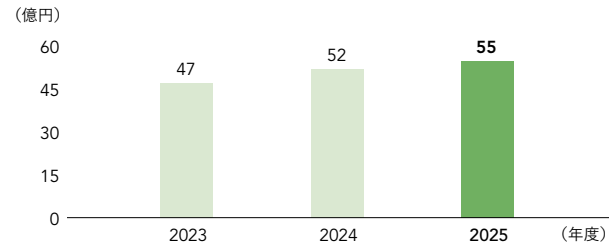
DSドメインは売上高650億円(前年度比+8.2%)、営業利益38億円(同+37.4%)となりました。
小型電池は、医療向け酸化銀電池を中心に大きく売上高を伸ばしました。また、インクジェットヘッドも、用途拡大等で前年度から売上高が増加しました。これらの結果、DSドメインは前年度から増収増益となりました。

SS(システムソリューション)

売上高



営業利益



※ 2024年度のみ2025年度のセグメントに組み替えて表示。

SSドメインは売上高572億円(前年度比+8.3%)、営業利益55億円(同+6.0%)となりました。
前年度から引き続きITインフラ関連が堅調に推移し、セキュリティ関連ビジネスも大手顧客向けの更新需要などがあり拡大しました。外食チェーン向けオーダーエントリーシステムやタクシー業界向け決済関連ビジネスも伸長しました。また、第2四半期に実施したM&Aもグループ内シナジー効果もあり収益に貢献したことなどから、セイコーソリューションズ(株)の事業は4Q四半期連続で対前年同四半期比増収増益となりました。

財務戦略

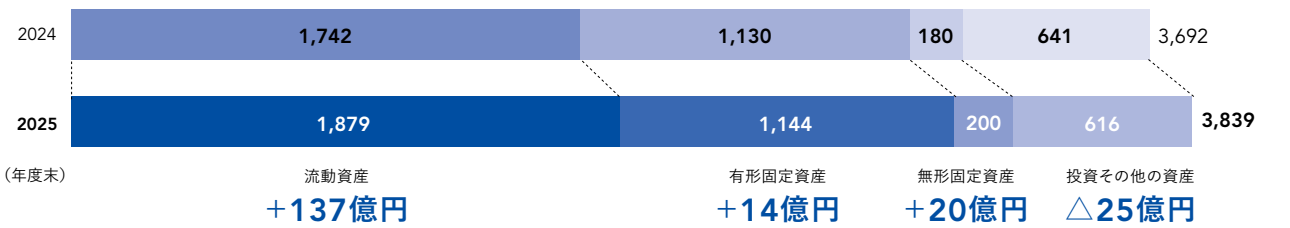
財務分析

貸借対照表

2025年度末実績(対前年度末比較)				
--------------------	--	--	--	--

資産の部

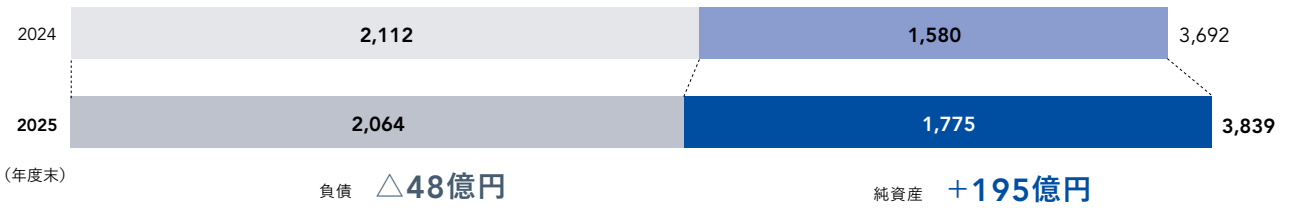
(億円)



総資産は、前年度末から146億円増加の3,839億円となりました。流動資産は、現金及び預金が41億円、売掛金が59億円、仕掛品が12億円、原材料及び貯蔵品が26億円増加したことなどにより、前年度末より137億円増加の1,879億円となりました。固定資産は、有形固定資産が14億円、無形固定資産が20億円増加した一方で、投資その他の資産が25億円減少したことから、前年度末と比べ9億円増加の1,960億円となりました。

負債・純資産の部

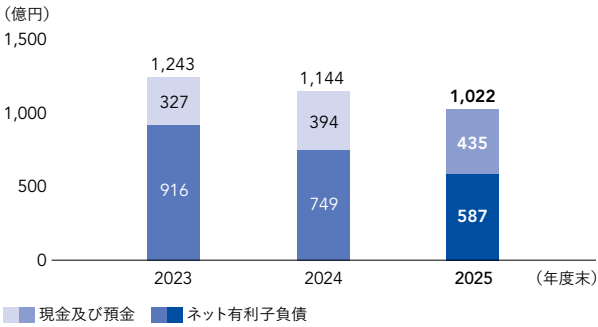
(億円)



負債については、短期借入金が80億円、長期借入金が41億円減少したことなどにより、借入金合計は955億円となりました。その他、支払手形及び買掛金が15億円、未払金が31億円、未払法人税等が14億円増加した一方、繰延税金負債が13億円減少したことなどにより、負債合計は前年度末と比べ、48億円減少の2,064億円となりました。

純資産については、株主資本が171億円、為替換算調整勘定が72億円増加する一方で、その他有価証券評価差額金が37億円減少したことなどから、純資産合計は前年度末と比べ195億円増加の1,775億円となりました。

有利子負債の状況



有利子負債は、好調な業績によるフリー・キャッシュ・フローの創出により、前年度末から122億円減少しました。資金の流動性については、2026年3月末の現金及び現金同等物の残高は435億円であり、将来の資金需要に対し適正な水準を確保していると認識しています。また、当社および国内の事業会社においてキャッシュ・マネジメント・システムを導入し、グループ全体の資金効率化を図っています。

キャッシュ・フロー

2025年度実績(対前年度比較)		
------------------	--	--

	(億円)	
	2024年度	2025年度
税金等調整前当期純利益	203	318
減価償却費	143	141
その他	△20	△91
営業CF	326	368
有形固定資産の取得	△104	△97
その他	12	△51
投資CF	△91	△148
フリーCF	235	220
借入金の借入・返済収支	△102	△123
配当金の支払	△36	△48
その他	△28	△35
財務CF	△165	△205
現金等の換算差額等	△2	25
現金及び現金同等物の増減	67	42
現金及び現金同等物の期末残高	394	435

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が318億円となり、減価償却費141億円を加え、売上債権の増減額△35億円、法人税等の支払額△87億円等の調整を行った結果、368億円のプラス(前年度は326億円のプラス)となりました。

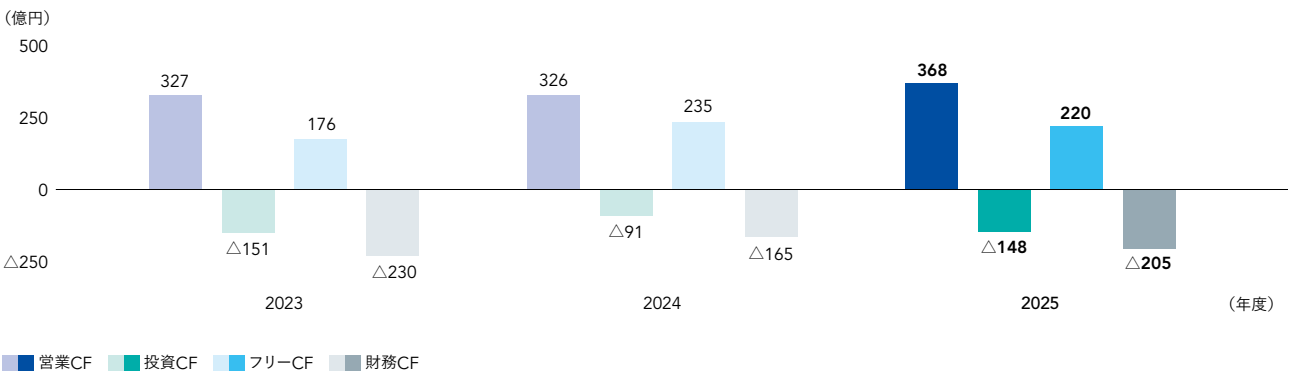
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出△97億円、無形固定資産の取得による支出△43億円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出△8億円等を計上したことから、148億円のマイナス(前年度は91億円のマイナス)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

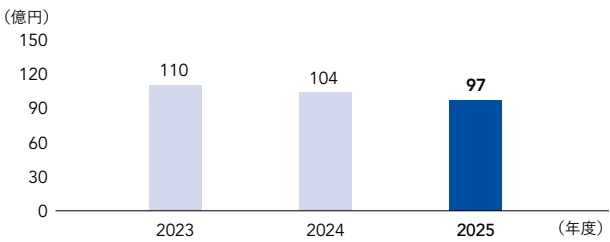
財務活動によるキャッシュ・フローは、長短借入金の返済および借入がネットで△123億円、リース債務の返済による支出△29億円、配当金の支払額△48億円等があり205億円のマイナス(前年度は165億円のマイナス)となりました。

キャッシュ・フロー推移



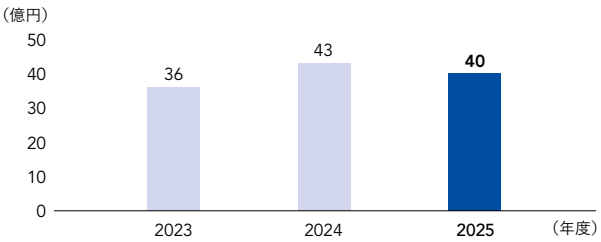
設備投資・研究開発費

設備投資



2025年度は、主として製造設備等の増強、更新等にEVSドメインにおいて49億円、DSドメインにおいて21億円、主として市場販売目的のソフトウェアの取得等にSSドメインにおいて29億円をそれぞれ投資しています。

研究開発費



2025年度の研究開発費は40億円であり、主としてDSドメインに係る研究開発活動を行っています。DSドメインに係る研究開発費は21億円、DS事業以外に係る研究開発費は20億円です。

CFOメッセージ



成長投資の加速と資本収益性の向上で、企業価値を次なる成長ステージへ

「SMILE145」の成果を原動力に、資本市場との対話を通じて企業価値向上を目指します

取締役・専務執行役員
最高財務責任者

米山 拓

「SMILE145」最終年度目標を大きく上回る成果を実現した2025年度

2025年度の事業環境は、国内では緩やかな景気回復が続いた一方で、海外では地政学リスクの高まりなど、不確実性の高い状況が継続しました。こうした環境下において、当社グループは第8次中期経営計画「SMILE145」を着実に推進した結果、2024年度に続き、3ドメインすべてで増収増益を達成しました。営業利益は前年度の212億円から309億円と大幅に伸長し、また、当期純利益も前年度の133億円から220億円となり過去最高益を更新しました。

業績を牽引したのは、エモーショナルバリューソリューション(EVS)ドメインのウォッチ事業です。国内では旺盛なインバウンド需要と堅調な内需を背景に好調に推移し、海外でも米国市場を中心に大きく成長しました。ブランド別には、グランドセイコーおよびセイコーグローバルブランド(セイコーGB)ともに国内・

海外で販売を拡大しました。また、デバイスソリューション(DS)ドメインも医療向け酸化銀電池やインクジェットヘッドが伸長し、システムソリューション(SS)ドメインも安定的な成長を継続しました。

この結果、営業利益に加え、ROICおよびROEについても「SMILE145」の最終年度目標を前倒しで達成し、いずれも目標値を大幅に上回る水準となりました。収益成長と資本効率の向上を両立できたことは、「SMILE145」で進めてきた各種施策の成果が結実したものと捉えています。

こうした実績を踏まえ、2026年度は営業利益335億円*を計画しています。「SMILE145」最終年度においても、さらなる成長と企業価値向上に向けて施策を実行していきます。

* 2026年5月発表値

第8次中期経営計画「SMILE145」財務KPIの進捗

	2025年度実績
営業利益	309億円 / 前年度比+45.4%
売上総利益率	46.2% / 前年度比+1.3pt (2021年度比+4.5pt)
ROIC	9.3% / 前年度比+3.3pt
ROE	13.3% / 前年度比+4.5pt



2026年度(最終年度)目標	
業績予想 (2026年5月発表)	中期計画 (2025年5月アップデート)
335億円	250億円
46.8% (2021年度比+5.0pt)	46.8% (2021年度比+5.0pt)
9~10%	6.5%超
12~13%	9.0%超

成長投資の加速と資本収益性の持続的向上

「SMILE145」において当社グループは、MVP戦略の推進により収益性の向上を図るとともに、適切な事業ポートフォリオ管理を通じた効率的な投資を実現し、ROICおよびROEの向上

を目指しています。

売上総利益率はウォッチ事業におけるグランドセイコー(GS)の販売拡大やセイコーGBのグローバルでの好調な販

売に加え、継続的な生産効率化の取組みが寄与し、前年度比+1.3ポイントと大きく上昇しました。利益成長に加え収益構造の改善が進んだことは、資本収益性向上の観点からも重要な成果であると認識しています。

キャッシュアロケーションは、財務体質の強化と株主還元のバランスを図りながら、成長投資を積極的に推進しています。2025年度までの4年間では、好調な業績を背景に、当初計画を上回るペースで成長投資を実行することができました。2026年度は、次期中期経営計画を見据え、成長投資を着実に実行していきます。具体的には、GSの海外での認知度向上に向けたグローバルでのブランディング投資の強化に加え、メカニカルウォッチの増産投資、DSドメインの成長領域への設備投資、SSドメインでは引き続きM&Aに取り組んでいきます。そのため、2026年度は将来の成長に向けた投資を優先しつつ、ROIC9~10%、ROE12~13%と、2025年度と同水準の高

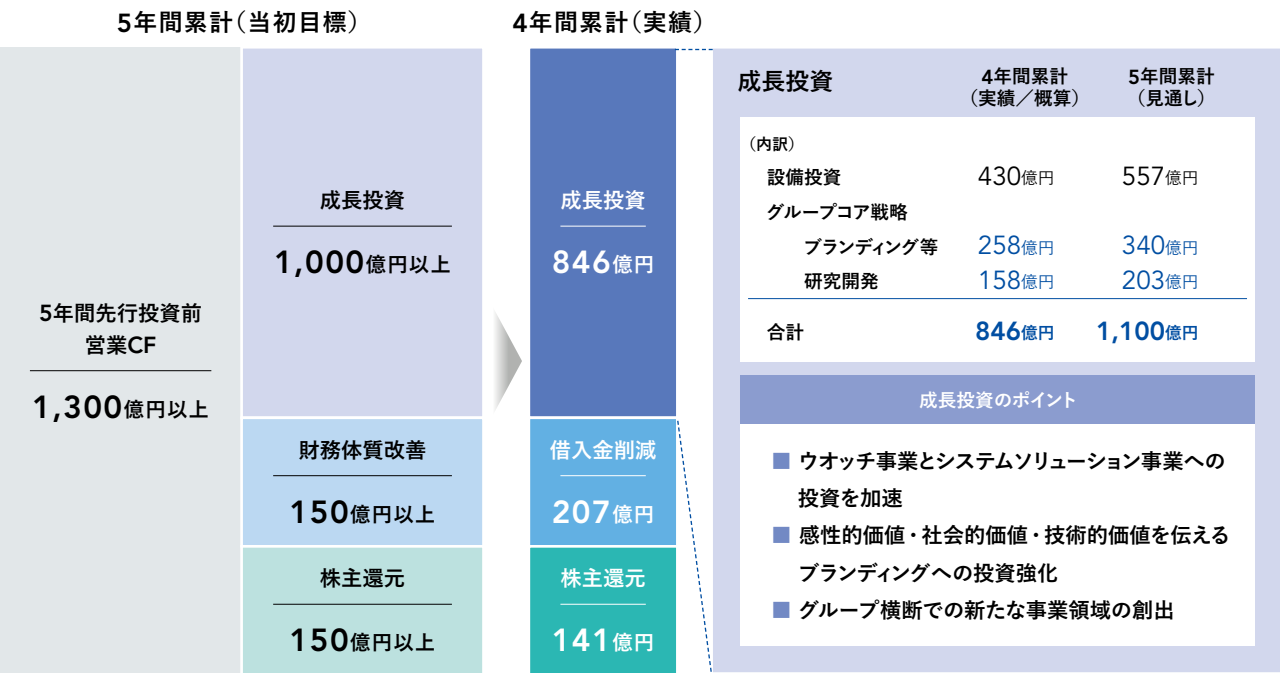
い資本収益性の維持を目標としています。

併せて、3ドメインにおけるMVP戦略を一層加速するとともに、グローバル製造体制の最適化など構造改革にも継続的に取り組み、持続的な資本効率の向上を図っていきます。

株主還元については、当社グループでは安定的な利益配分を重視することを基本方針に、株主への主要な利益還元施策を配当による還元と位置づけ、連結配当性向30%以上を基準としています。足元では財務体質の改善が着実に進展しており、こうした状況を踏まえ、次期中期経営計画では成長投資や資本効率とのバランスを総合的に勘案しながら、株主還元の在り方についても検討を進めていく方針です。

引き続き成長投資・財務体質の改善・株主還元のバランスを見極めながら、資本コストを意識した効率的なキャッシュ配分を継続していきます。

キャッシュアロケーション



4年間累計(実績)

成長投資
846億円

借入金削減
207億円

株主還元
141億円

成長投資	4年間累計 (実績／概算)	5年間累計 (見通し)
(内訳)		
設備投資	430億円	557億円
グループコア戦略		
ブランディング等	258億円	340億円
研究開発	158億円	203億円
合計	846億円	1,100億円

成長投資のポイント

- ウォッチ事業とシステムソリューション事業への投資を加速
- 感性的価値・社会的価値・技術的価値を伝えるブランディングへの投資強化
- グループ横断での新たな事業領域の創出

※ 5年間累計(見通し)
成長投資+借入金削減+株主還元=1,570億円

資本市場との対話の深化と、中長期的な企業価値の最大化に向けて

2025年度は、当社株価が大きく上昇し、資本市場からの評価の高まりを実感する一年となりました。同時に、機関投資家の皆さまとの対話機会が拡大する中で、当社のIR活動も質・量の両面においてさらなる充実が求められる段階にあると認識しています。

今後は、当社の成長戦略および資本収益性向上に向けた取組みについて、次期中期経営計画へ向けてより一貫性と具体性をもって発信を強化していきます。また、市場からのご意

見やご期待を経営に適切に反映することで、ステークホルダーとのエンゲージメントの質的向上を図ります。

加えて、機関投資家の皆さまとの対話を深めるだけでなく、個人投資家の皆さまに対してもわかりやすい情報発信を行い、幅広い投資家層との信頼関係の構築に努めます。

当社は今後も、資本市場との建設的な対話と情報開示の充実により経営の透明性を高め、持続的な資本収益性の向上を通じて、中長期的な企業価値のさらなる向上を目指します。